

## 教育学研究科専門職学位課程（教職実践専攻）教育の方針

### 教育の基本的目標

教育学研究科専門職学位課程（教職実践専攻）は、教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探究することにより、学校リーダーおよび地域社会に貢献できる高度な教育的実践力を涵養するとともに、学生同士や教職員および学校・地域との連携・協働による対話や議論を通じて、個々人が豊かな教育者としての醸成ができるよう支援し、指導的役割を果たす能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

### 養成する人材像

#### よりよい教育実践に持続的に取り組むアクション・リサーチャーとしての教師

岡山大学の「教育の基本的目標」と「養成する人材像」のもと、本研究科では、教育の専門的な学識を通じて、学校・社会において、広い視野をもつ高度な実践的指導力を有する人材を養成します。

以下、5つの力を持つ人材を養成します。

- 学校教育の課題と向き合い、改善および改革に貢献できる実践力
- 子供・学校・地域の教育課題を発見し、論理的・複眼的に迫る探究力
- 教育事象を他者と共有し、連携・協働するコミュニケーション力
- キャリア段階に応じたリーダーとしての役割を担い、教育課題を解決し、授業や指導の改善・変革を遂行できる専門力
- 教育事象に倫理観・道徳観をもって判断できる力

## 卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

教育学研究科専門職学位課程（教職実践専攻）は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

### 【実践力】学校教育の課題と向き合い、改善および改革に貢献できる実践力

職能発達に応じて、課題を見出し、その解決・評価を実践できる。

学校教育の課題解決のためにリーダーとして学校内外の連携・協働に参画できる。

学校や地域社会における教育実践の展開に貢献することができる。

### 【探究力】子供・学校・地域の教育課題を発見し、論理的・複眼的に迫る探究力

対象とする学校の児童・生徒の実態をもとに、育成の方向性、教育目標を見据えて、多面的な検討により意味のある教育実践を見いだせる。

学校の教育活動を一体的・総合的にとらえ、見出した教育実践の本質を他者が理解できるように説明することができる。

### 【コミュニケーション力】教育事象を他者と共有し、連携・協働するコミュニケーション力

職能発達段階の異なる同僚や関係者と、教育事象について様々な視点から交流し、異なる見方や考え方を共有できる。

同僚や関係者と協力し、教育課題の解決のための適切な方向性を提案できる。

### 【専門力】キャリア段階に応じたリーダーとしての役割を担い、教育課題を解決し、授業や指導の改善や変革を遂行できる専門力

理論と実践の架橋・往還・融合を通して、実践の展開を高度にマネジメントし、学校や地域の教育の課題を適切に分析し改善することができる。

専門領域の知識や技能の学びと学習指導や学校経営、生徒指導等の学びをいかし、学校の教育課題に即時対応できる。

### 【教養力】教育事象に倫理観・道徳観をもって判断できる力

学校および地域社会で起きる教育事象に課題意識を持ち、自らの普遍的な基準と規範に基づく判断力を磨き、児童生徒等に教授する立場として、学び続けることができる。

## 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、教育学研究科専門職学位課程（教職実践専攻）として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

### 教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

### 教育内容の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容を提供します。

#### 【共通教育】

学部新卒生、現職教員院生がそれぞれの職能成長、専門教科等に応じた教育的実践力の育成と、ともに学び合う、共に育ち共に創る実践的な学習機会を提供します。

今日的教育課題や教育事象について仕組みや成り立ちを学び、キャリア段階に応じてアクション・リサーチャーとしての教師に求められる教育実践を学び、必要な知識や技能を身につけるカリキュラムを提供します。特に、学部新卒院生と現職教員院生とが「共に学ぶ」ことを通じて、教育事象を多様な視点からみる見方や考え方を共有し、課題の解決に向け展開される実践に参画していく資質・能力を「共に高める」機会を提供します。

#### 【専門教育】

教育の領域で、教育現場と社会、人間に関わる多様な事象を対象とした諸科学を探究する機会を提供します。

学部学生または教師としての多様な学修経験を通して培った資質能力に加えて、アクション・リサーチャーとしての教師に求められる教育実践を深く学び、それらを統合し、身につけるカリキュラムを提供します。さらに、学校現場や教育行政との密接な連携のもと、研究成果を学校現場に直接還元できる機会を提供します。

## 教育方法の考え方

前述の教育内容を以下の方法で提供します。

### ①自身の可能性を主体的に広げる教育方法を展開します。

「共に学ぶ」ことを通じて、教育事象を多様な視点からみる見方や考え方を共有し、課題の解決に向け展開される実践に参画していく資質・能力を共に高めます。

### ②教育委員会・学校現場との連携の特長を活かした教育体系を提供します。

教育委員会・学校現場と連携した学習活動を通して、理論と実践の高度な架橋・往還・融合を通じて、教職生活全体を通じて継続的に職能発達する高度専門職業人としての力量を高めます。

### ③学生の成長に応じた実践的な教育プログラムを提供します。

開講科目の多くで、校種や教科、これまでの経験、そして職能発達段階の異なる学部新卒院生と現職教員院生とが同じ授業を履修します。実習では、職能成長の段階等に応じて、課題の発見→解決→探究、問題の分析→解決策の提案といった取り組みをカリキュラムに明確に位置付け、段階的に学修します。

## 学修評価の考え方

厳格な学修評価を実施します。

講義科目では主に総括的評価を、実習・演習科目では主に形成的評価を重視します。アクション・リサーチャーとしての基幹的な資質・能力の修得状況について、学部新卒院生と現職教員院生に共通でA+・A・B・C・F評価で実施し、到達目標の概ね達成の基準Cを設定しています。各科目の評価方法はシラバス等により履修者に示します。

## 正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。学校支援ボランティア、学習支援員、NITS研修参加、学会発表など

## 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

教育学研究科専門職学位課程（教職実践専攻）は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

### 求める人材像

学校教育に携わることへの強い使命感と熱意があり、学校教育の現状について幅広い関心を持つ人、学校教育の課題の解決に意欲を持ち、高度な教育実践力の獲得・向上を目指す人、また学校づくりの有力な一員になろうとしている人や地域・学校において指導的役割を果たすことを目指している現職教員を求めています。

### 求める力

#### 【実践力】

自らの専門領域の知識や技能だけでなく、他教科等の理解や学校全体を視野に入れた課題と向き合い、解決に向けて行動することができる。

#### 【探究力】

教育に関する理論を実践にいかす方法を思考したり、子供の学びや発達、心身の健康の獲得におけた教育方法や課題、問題を明らかにしたりすることができる。

#### 【コミュニケーション力】

新卒入学希望者（現在学部学生）の方は、学ぶことの楽しさを伝えられる幅広い経験から、教員として学校や子供の理解を深めることができる。

現職入学希望者の方は、教師として地域や学校における経験から、子供たちの学ぶ意欲の向上、諸課題に対応など理解を深めることができる。

#### 【専門力】

自らの専門領域の知識や技能および学習指導や学校経営、生徒指導等の学びを実践の展開にいかすことができる。

#### 【教養力】

学校および地域社会の事象に興味関心をもち、他者と考えを共有しながら、自らの普遍的な基準と規範に基づく判断力を磨くために学び続けることができる。

## 教育学研究科専門職学位課程（教職実践専攻）の選抜方針

多様な学生を評価できるように出願の要件の異なる入試選抜を実施しています。

## 教育学研究科専門職学位課程（教職実践専攻）の選抜方法

学力検査、面接、書類審査などによる試験のいずれかを、あるいは組み合わせて行い、本学での学修に足る学力または適性を測ります。

## 選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

入学者選抜試験を専門職学位課程は、第1期（9月）、第2期（2月）、第3期（3月）の3回実施し、合格者は4月に入学します。多様な学生を評価できるように出願の要件の異なる入試選抜を実施しています。

### ・推薦入試（第1期）

面接（口述試験を含む。）と書類審査により評価します。面接（口述試験を含む。）では、学校教育分野の基礎的な理解と表現力、教員としての実践力と課題解決におけた意欲と具体性、教師としての倫理観などについて教員が口頭試問により総合的に評価します。書類審査（志望理由書・課題論文）では、学校教育の現状や課題から解決や改善、向上におけた思考力を評価します。

### ・一般入試（第1期、第2期、第3期）

小論文と面接（口述試験を含む。）、書類審査により評価します。面接（口述試験を含む。）では、学校教育分野の基礎的な理解と表現力と、教員としての実践力と課題解決におけた意欲と具体性、教師としての倫理観などについて教員が口頭試問により総合的に評価します。小論文と書類審査（志望理由書）では、学校教育の現状や課題から解決や改善、向上におけた思考と意欲を評価します。

### ・現職教員入試（自己推薦型）（第1期）

面接（口述試験を含む。）と書類審査により評価します。面接（口述試験を含む。）では、学校教育分野の基礎的な理解と表現力、教員としての実践力と課題解決におけた意欲と具体性、教師としての倫理観などについて教員が口頭試問により総合的に評価します。書類審査（志望理由書・課題論文・教育改善報告書・研究業績書）、学校教育の現状や課題から解決や改善、向上におけた思考力とミドルリーダーまたは学校リーダーとしての地域づくりや学校づくりの一員としての思考と意欲を総合的に評価します。

### ・現職教員入試（第2期、第3期）

小論文と面接（口述試験を含む。）と書類審査により評価します。面接（口述試験を含む。）では、学校教育分野の基礎的な理解と表現力、教員としての実践力と課題解決におけた意欲と具体性、教師としての倫理観などについて教員が口頭試問により総合的に

に評価します。小論文と書類審査（志望理由書・課題論文・職務実績報告書）では、学校教育の現状や課題から解決や改善、向上におけた思考力とミドルリーダーまたは学校リーダーとしての地域づくりや学校づくりの一員としての思考と意欲を総合的に評価します。

## 入学前に学習しておくことが期待される内容

新卒入学希望者（現在学部学生）の方は、学部で授業や実習に意欲的に取り組んでください。教育に関する理論を実践にいかす方法を思考したり、子供の学びや発達、心身の健康の獲得におけた教育方法や課題、問題への理解を深めてください。また、ボランティアなどに積極的に参加するなどから、学ぶことの楽しさを伝えられる幅広い経験を積んでください。

現職入学希望者の方は、教育と指導に関する理論から実践・応用する考えを深め、子供たちの学ぶ意欲の向上、諸課題に対応など、教師として地域や学校における経験を積んでください。